東京大学地域未来社会連携研究機構
三重サテライト第２回ワークショップ

テーマ：RESAS(リーサス）を活用した地方創生施策の新展開

■日時：2019年 5月 24日（金）14:00−17:00

■会場：東京大学地域未来社会連携研究機構三重サテライト
三重県四日市市鵜の森1丁目４－28
ユマニテクプラザ1階

■プログラム：

14:00−14:10　開会あいさつ

14:10−15:00　講演　１「地方創生施策の検証と今後の課題」
松原　宏（東京大学大学院総合文化研究科教授
地域未来社会連携研究機構長）

15:00−15:30　質疑・休憩

15:30−16:20　講演　２「RESASを活用した施策立案の現状と課題」
渡邉宏和（内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局
ビッグデータチーム 企画官）

16:20−17:00　質疑・総合討論

■シンポジウム参加費：無料

■定員　20名
（先着順：以下のアドレスにご所属とお名前をお知らせ下さい）

■問合先：東京大学地域未来社会連携研究機構事務局
E-mail. office@frs.c.u-tokyo.ac.jp

■趣旨：

地域未来社会連携研究機構は、東京大学の新しい連携研究機構として、2018年4月1日に設置されました。地域の課題解決に関わる学内の11部局が連携し、統合したプラットフォームを構築することで、研究・地域連携・人材育成の３局面で相乗効果を発揮することを目的としています。

昨年11月に締結された三重県と東京大学との包括連携協定の下、今年度より地域未来機構では、三重サテライトでの活動を本格化させていきます。

産業立地政策について議論した第１回ワークショップに続き、今回はRESASと地方創生を取り上げます。現在、まち・ひと・しごと創生本部では、2014年から5年が経過した地方創生施策についての検証作業と第2期に向けた議論が集中的に行われています。当日は、検証会の座長を務めている松原宏機構長が、「地方創生施策の検証と今後の課題」と題した講演を行うとともに、地方創生本部でRESASを統括している渡邉宏和企画官より「リーサスを活用した施策立案の現状と課題」についてお話しいただき、三重県における地方創生施策の今後の方向性について、考えたいと思います。